



本との相性の良さで厳選したオーガニック珈琲は、すっきりとした後味が特徴

もともと善光寺門前から長野駅に至る中央通り沿いには、昔から何軒もの本屋が点在し、長野市の文化発信の拠点として大きな役割を務めてきました。ところが、人口減少による経営難や出版不況、書籍のデジタル化やネット販売の浸透といった複合的な要因が重なり、長野市内でも馴染みのある書店が一軒、また一軒と姿を消しています。全国的なデータで見ると、書店ゼロの市町村数の多さでは、長野県は北海道に次いで第2位という結果も出ているほどです。

「町の本屋として切り盛りしてきましたが、当社も10年ほど前から危機感を抱きはじめ、新たな業態を模索していました。いくつかの構想のなかから、善光寺門前という立地の良さを考えたところ、観光客にも気軽に足を運んでいただけるブックカフェにリニューアルすることを決断しました」と、西

インパクトのある御朱印帳の商品棚

澤書店4代目の西澤基喜さんは語ります。リニューアルにあたり、店舗デザインでイメージしたのは大正時代の西澤書店でした。当時の写真を見ると、間口が広く、店舗前のスペースには平台が置かれ、半袖短パン姿の子供達がたむろしている姿が写っています。平台の雑誌を覗く姿からは、笑い声や歓声が聞こえてきそうで、町の本屋さんって、こういう楽しい場所だったなと思ひ出されます。

開放的な入口から店内に入ると、右手の棚には善光寺門前らしく御朱印帳がずらりと並べられていて美に壮観です。可愛らしい絵柄のものから荘厳な色合いのものまで見るだけでも楽しく、西澤さんによると120種類以上はあるとか。生地を選べる御朱印帳の手作り体験も企画中ということです。

一冊の本と一杯の珈琲から紡ぎ出される豊かな時間

店内奥にある広いテーブル席では、買ったばかりの本を読みふけるお客様の姿が……。ここでは、静かに読書に没頭したり、気軽にカフェタイムを楽しんだり、友人と本について語り合ったりと思ひ思いの時間を過ごせます。珈琲は、本との相性の良さにこだわったオーガニック珈琲を厳選。市内のサンドイッチ専門店から取り寄せた「抹茶あんマスカルポーネ」などの軽食も人気です。

店内に並ぶ本は、他の書店には見られないジャンルのものや昔懐かしいコミック本などもあり、お客様が探し、選ぶ楽しみも味わえ

輝くあの人にインタビュー

人きらっとひかる

にしざわもとよし
西澤 基喜さん

株式会社長野西澤書店 代表取締役社長



老舗書店がブックカフェにリニューアル
本との出会いを楽しむ心豊かな空間へ

善光寺門前にある創業約170年の老舗書店が、令和6年5月21日にリニューアルオープンしました。出版不況など様々な要因で書店がなくなりつつある長野市内で、老舗ならではの矜持を胸に、生き残りをかけて新業態に挑戦しています。店名の「西澤書店 門前えにし珈琲」には、文化の発信拠点としての役割を務めながら、連続と受け継がれた歴史やお客様との「縁」を大切にしたいという思いが込められています。

善光寺門前の老舗書店がブックカフェにリニューアル

善光寺交差点から大門交差点に至る大門町上区は、長野市のなかでも最も古い歴史を誇る町です。風情ある石畳の街路を舞台に、初春には「長野灯明まつり」、ゴールデンウィークには「善光寺花回廊」、夏には「ながの祇園祭」などが盛大に開催され、善光寺の参詣者と相まって一年を通して賑わいを見せています。その通り沿いに今年の5月、新たにカフェを新設したブックカフェ「長野西澤書店 門前えにし珈琲」が誕生しました。

長野西澤書店の前身である『松葉軒 長谷屋九衛門』は江戸末期に創業され、当時は善光寺境内の地図を発行・販売する露店として繁盛していました。現在は、長野県唯一の官報取り扱い店となる長野県官報販売所として、また長野市内の小中高の教科書販売店として、本屋を核に様々な事業を展開しています。

る仕掛けが随所に取り入れられています。

「ネット購入では得られない、どきどきするような、本との出会いを楽しんでいただきたいですね。善光寺門前で培った皆様とご縁を大切に、これからも長く愛される店づくりに努めていきます」。



御朱印帳は、120種類ほど。御朱印帳の手作り体験も企画中

PROFILE

長野西澤書店の4代目。長野市出身。大学卒業後に東京の大手出版卸業に就職。2002年に長野に戻り、長野西澤書店の代表取締役社長に就任する。趣味は町歩き。

DATA

株式会社長野西澤書店
 [創業] 江戸末期
 [事業内容] 書籍・雑誌卸業、官報販売、飲食業
 [所在地] 長野市大門66-1 TEL 026-233-3185
 [営業時間] 10:00~17:00(カフェ16:30LO) 年中無休